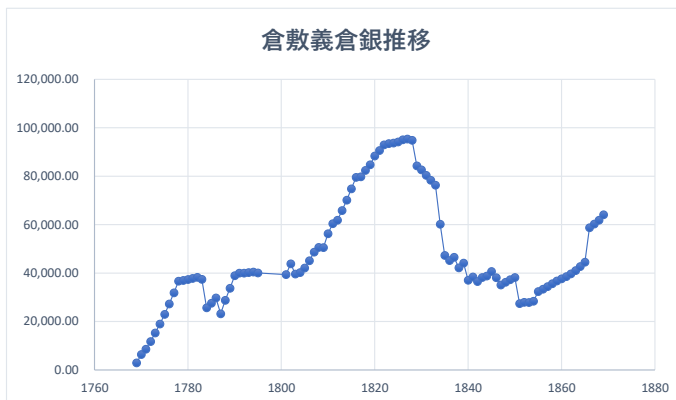


年	西暦	義倉銀合計 (匁)	
明和6	1769	2,885.00	
明和7	1770	6,417.01	
明和8	1771	8,565.60	
安永元	1772	11,701.25	
安永2	1773	15,307.00	
安永3	1774	18,933.86	
安永4	1775	22,983.97	
安永5	1776	27,257.05	
安永6	1777	31,867.09	
安永7	1778	36,645.26	
安永8	1779	36,969.68	義麦銀の抛出止め、約50石割戻し
安永9	1780	37,325.79	約50石戻し
天明元	1781	37,785.87	約50石戻し
天明2	1782	38,266.09	約50石戻し
天明3	1783	37,406.62	凶年 夫食米代支出
天明4	1784	25,661.97	凶年 夫食米代支出
天明5	1785	27,577.47	夫食米代支出
天明6	1786	29,705.50	夫食米代支出
天明7	1787	23,166.46	夫食米代支出
天明8	1788	28,755.02	古義衆と新義衆が出麦
寛政元	1789	33,756.15	古義衆と新義衆が出麦
寛政2	1790	38,969.31	古義衆と新義衆が出麦
寛政3	1791	40,000.00	3年間の出麦へ割戻し開始
寛政4	1792	40,000.00	3年間の出麦へ割戻し
寛政5	1793	40,209.56	麦銭貸し渡し取立不足
寛政6	1794	40,414.57	3年間の出麦へ割戻し
寛政7	1795	40,031.70	3年間の出麦へ割戻し完了。古義衆への割戻し再開
享和元	1801	39,364.52	本格的に救恤事業開始
享和2	1802	43,805.39	
享和3	1803	39,608.60	
文化元	1804	40,241.92	
文化2	1805	42,073.21	
文化3	1806	45,135.92	
文化4	1807	48,657.89	
文化5	1808	50,608.00	教諭入用支出
文化6	1809	50,554.46	
文化7	1810	56,262.58	
文化8	1811	60,378.48	
文化9	1812	61,814.68	
文化10	1813	65,838.21	
文化11	1814	70,137.95	
文化12	1815	74,823.90	
文化13	1816	79,527.50	
文化14	1817	79,803.57	
文政元	1818	82,429.98	
文政2	1819	84,759.46	
文政3	1820	88,339.79	
文政4	1821	90,589.21	
文政5	1822	92,967.75	返済方式変更
文政6	1823	93,475.70	
文政7	1824	93,691.05	
文政8	1825	94,185.14	
文政9	1826	95,064.51	うち約56貫返済不能
文政10	1827	95,391.04	
文政11	1828	94,824.76	
文政12	1829	84,281.87	困窮人多数
天保元	1830	82,622.11	
天保2	1831	80,397.55	
天保3	1832	78,345.22	
天保4	1833	76,316.38	
天保5	1834	60,172.24	困窮人多数
天保6	1835	47,327.93	
天保7	1836	45,210.72	
天保8	1837	46,534.21	
天保9	1838	42,168.76	
天保10	1839	44,139.82	
天保11	1840	37,067.53	
天保12	1841	38,403.43	

天保13	1842	36,551.88	
天保14	1843	38,153.51	
弘化元	1844	38,769.59	
弘化2	1845	40,644.38	
弘化3	1846	38,085.56	
弘化4	1847	35,084.27	
嘉永元	1848	36,223.11	
嘉永2	1849	37,278.30	
嘉永3	1850	38,162.98	
嘉永4	1851	27,433.07	洪水による夫食米代支出
嘉永5	1852	27,952.63	夫食米代支出
嘉永6	1853	27,840.21	
安政元	1854	28,380.78	
安政2	1855	32,411.37	
安政3	1856	33,335.82	
安政4	1857	34,397.19	
安政5	1858	35,582.78	
安政6	1859	36,746.90	
万延元	1860	37,664.55	
文久元	1861	38,563.31	
文久2	1862	39,670.32	
文久3	1863	41,039.26	
元治元	1864	42,701.25	
慶応元	1865	44,535.03	
慶応2	1866	58,757.06	
慶応3	1867	60,288.14	
明治元	1868	61,812.65	
明治2	1869	64,076.66	在金は21貫余
明治3	1870	金730.402両	金での勘定に切り替え
明治4	1871	金705.483両	
明治5	1872	金656.442両	在金は199両余り



典拠：倉敷市所蔵倉敷義倉文書2-1~2-9